

時間	子どもの生活	保育者の援助・配慮	備考
15 : 00	着替える 排せつ 手洗い おやつ 歯みがき 身じたくをする 読み聞かせ	○子どもが自分でしやすいように援助する。 ○濡れタオルで体を拭き、気持ちよさを感じる。 ○夏場はシャワーを浴び、汗を洗い流す。 ○きちんとできているか見守り、できていないところは自分で気づけるように援助する。 ○食事時間と同じように配慮する。 ○お当番が自分の役割に気づき、配膳できるよう見守る。 ○歯みがきを見守り、保育者もいっしょに行なう。 ○汚れ物やタオル、おたより帳などを自分のカバンに入れるよう促す。 ○徐々に帰りの会に加わるように配慮しながら待つ。 ○絵本や紙芝居の読み聞かせ。子どもたちが好きな絵本を自ら選ぶ。 ○翌日の計画や、何をして遊びたいかなど伝え、明日も期待感や意欲を持って登園できるように子どもたちと話し合う。	●お湯で湿らせたタオルを準備する。 ●アレルギー食への配慮。 ●自発的な気持ちを尊重する。 ●健康状態をよく見る。
15 : 30		○配布物はしっかり子ども自らみずからが保護者に伝えられるよう明示する。 ○確実にカバンに入れたかを見届ける。	●保護者への連絡事項など再確認し、場合によっては引継ぎ事項とする(配布物がある、お迎えの人がいつもと違う、時間が変更している、保育中のけがについてなど)。
15 : 45	順次降園 遊び	○迎えの保護者にようすを要約して伝え子どもの行動を視野に入れつつ、コミュニケーションを図る。 ○夕方の戸外遊びは職員数、異年齢児混合などの状況を考慮して、保育の形態を常に柔軟にとらえ、クラスの枠を超えての連携で保育展開するように心がける。	●担任がいるとは限らないので必要なことにおいてはクラスの枠をはずしてかかわれるようにする。
16 : 00	お片付け 手洗い 足洗い 読み聞かせ 閉園	○けがをしやすい時間滞でもあるので安全には十分に注意して過ごす。 ○子どもたちと一緒に片づけ、きれいに整える。 ○帰る際はしっかり汚れを落とすよう見守りながらさりげない援助を行う。 ○静かに紙芝居を見て、安心して過ごす。 ○保護者への伝達をし、忘れ物がないの見届けて「さようなら」のあいさつを交わし、和やかにお別れする。 ○お迎えが遅れる子どもが安心して待てるように配慮する。 ○明日の受け入れのために保育室を整えて終了する。	●「おかえりなさい」のあいさつとともに、直接伝達事項がない場合にも二言三言の会話を交わしコミュニケーションを図る。